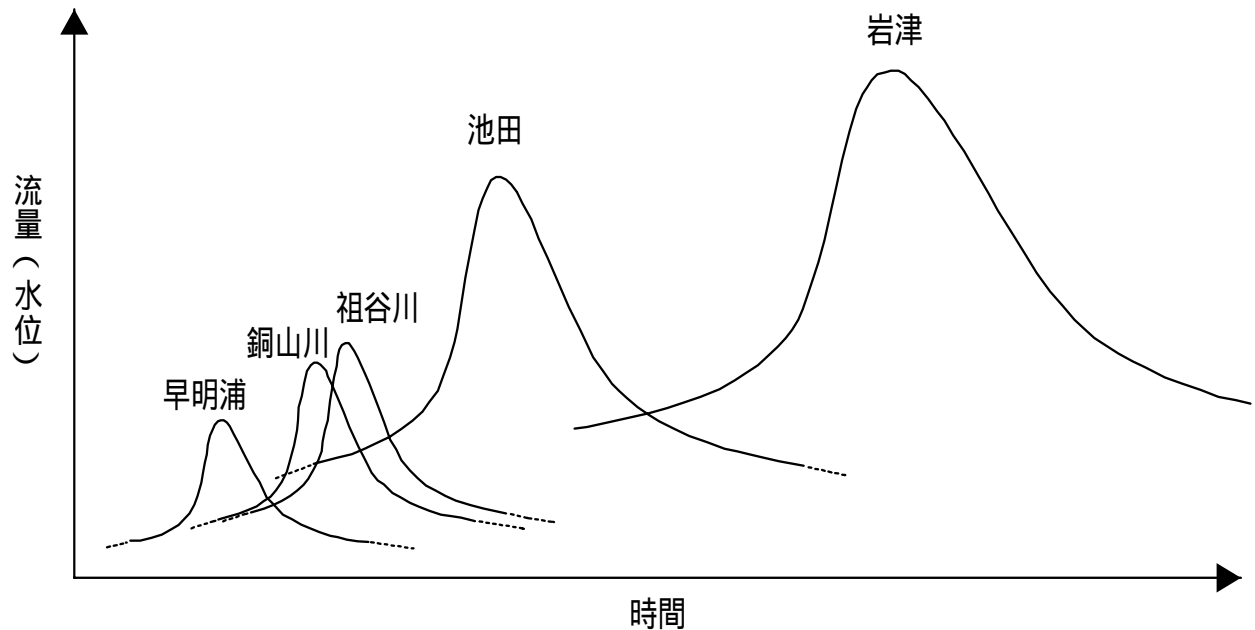


2) 川の流れの特徴

河川の流出量は支川の合流によって次第に増大します。その為流域面積の大きな(支川の合流量の大きな)下流ほど、ピーク流量は大きくなります。

一方で洪水流の速さは河川の勾配が急なほど大きくなります。その為、下流へ流下するほど洪水流はゆっくりと流れます。



注) 流量ハイドログラフとは、洪水時の流量(単位時間あたりに河道を流下する水量 m^3/s)の時間変化を図にしたもの。

しかし、洪水流の規模が増大すると、無堤部では、洪水流は河岸を乗り越えて氾濫するため、下流への流出量は減少します。

また氾濫には至らない中小規模の洪水流であっても、川幅の大きな場所では洪水流が一時的に貯留され、同様の現象が起きます。

この他、治水対策としてダムや遊水地を築造して洪水の一部を貯留すれば、洪水流の流下量は減少します。

